

●地域説明会 京田辺市多々羅公民館 来場者 22 名 2 月 15 日（土）



今年の地域説明会は計画は早く立てることは出来ましたが、肝心の会場確保に取り組む事が出来なくて、ようやく京田辺市の普賢寺地域の多々羅公民館を借用する事ができ、2月15日に開催が可能となりました。

今回の地域説明会では中学生の生徒さんが里山農園を中心にした調査観察結果を発表していただきました。中沢君は「里山農園やポレポレ

ランドで生き物に出会ったものを写真やノートへの記録」を発表してくれました。続く吉村君はナガサキアゲハの北上に興味を持ち、他のチョウの北上にも観察を広げ、北上の原因は地球温暖化と食草などが大きい原因と思われる」と発表されました。お2人とも里山農園での観察や調査に懸命です。「観察力」が培われ



「なぜ？」と知りたいと思う好奇心が育てられたのでしょうか。森島保さんは、アライグマの取組報告として生まれた子供が1年で妊娠する。それに雑食性で何でも食べる。捕獲で根絶できるのかと発表された。イノシシの取組を発表された播川司さんは、現状の説明と人とのすみ分けの必要性、干渉帯実現への協力を訴えられました。オオムラサキと昆虫の取組報告の金田徹さんは、昆虫の生育環境（クヌギとエノキがあり）が里山農園は整っていることと、樹液と食樹の豊かな森を目指しての保全への発表でした。ヤマトサンショウウオの取組報告の太田敏之さんからは経過報告と今後の課題について模索中だと報告された。農園付近の植物について報告された山村武正さんからは、普賢寺地域の環境の再認識と誇りを持ってほしいと強調された。



最後に炭焼きについて大村幸正さんから炭焼き窯などの説明と燃料問題と現在の生活、施設と技術伝承の大切さが報告された。参加者からは多くの方が優れた環境が再認識できたが地域住民の生活向上への提起を求めるとの要望がされました。



●木津川クリーン大作戦が成功 協力者 22 名 2 月 16 日（日）



里山の会の活動は打田地域の植物や炭焼き体験が一段落して木津川に関心が広がって自転車道や高水敷を歩くと、木津川は綺麗な水が流れている美しい川だと誰もが感じていました。しかし増水後の茶畑にはペットボトルなどが大変多く残され、草内運動公園では400本を拾い集めることもしばしばでした。茶農家さんはビニールや飲料水の缶などの後片づけに相当労力を払っておられました。綺麗だと思っていた木津川は大変な川になっていたのです。里



山の会は植物の調査観察に藪の中に入って見て大量のゴミに驚きました。また自転車道でも一旦駐車場などではたばこの吸い殻などが散乱していました。遠くから見ているのと歩いてみるのでは大違いでした。そこで、ゴミが目立つ場所に手ごろな太さの竹を切ってきて、ごみ拾いの呼びかけのポスターを木津川市から八幡市までに50本50ヶ所に「掛けや」で打ち付けて回りました。その呼びかけに応えていただいたのがイヌハギを管理してくれている山下茂さんでした。また久御山町の流れ橋に来られたのが芳川艶子さんでした。その後この取り組みをチャンスに里山の会の幹部として大仕事を進めていただきました。森島保さんや大村幸正さんに加えて福井波恵さん達は、木津川の兩岸を走り回って集められたごみの収集に力を発揮していただきました。木津川のクリーン大作戦の実行委員長をされている山田信人さんは、現役の河川レンジャーの時代から清掃活動を提案され、5年間で800人25団体が集合する運動へ発展させるためにご苦労をいただいています。



●竹サインペン新しい注文が来る 200本 3月2日に納品を 竹割のお手伝いを

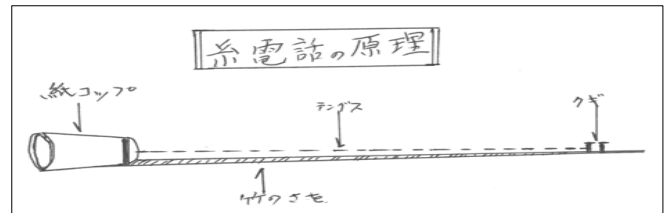
竹サインペンは山村常務理事が3年前に病気治療で入院していた時に思い付き、城陽の竹島修さんに手作りで第1号を試作いただき、改良に改良を重ねて、宇治市にお住いの金型職員であった木下勉さんの協力が得られてさらに改善し、製作道具類を考え出し、今日僅かながら評価される形に到達出来ました。2023年の京都植物園でのいきものフェスで講演された湯本貴和先生から紹介され称賛されました。それ以後竹エンピツや竹を素材に使用した作品の注文が続きました。作品をご覧になった皆さんから手触りが良いと、どなたからも評価をいただいています。竹で作れている事にも驚き、障がい者の手仕事を狙いにしていることにも頑張っている声が届けられています。まだまだ改良が必要ですが、何よりも竹の切断や太さを揃えられる竹割機の製作が強く求めているところです。ここが出来ると大量生産体制の第一歩になると思われます。とにかく誰でもできる手仕事の竹割ですので少しの時間でも助かります。ご協力をお願いいたします。

●さんさんグリーンさん(就労支援作業所)を訪問 2月17日(月)

障がい者支援として数々の表彰を受け全国各地から農福連携のモデルとして大変多くの参加者があった「さんさん山城」をあとに、行き場所を模索されていましたが、枚方市の医療法人のみどり会からレストランと事務所の提案があり、多くの聴覚障がい者の方がこれまで通り作業をされているとお聞きしていただきましたので訪ねました。レストランは本格的で、食事の場所も一流のホテル並みの部屋、田辺では一味も二味もランクが上と見れる雰囲気のお店でした。調理室や事務所、そして作業場所も空調が完備されていて行き届いた広さで皆さんが思い思いの作業を一生懸命にされていました。かなり広いスペースでした。部屋の外には駐車場もゆとりがあり、玄関もしっかりした構えがされていました。ロビーやトイレもきちんと整備されていました。これならさらに充実した活動を展開されてゆくのではないのでしょうか。ここ以外にも京田辺市で農作業の休憩所や農機具の置き場所も確保されていると伺いました。多くの皆さんがご協力をされているのを見て取れました。多少の困難はあるでしょうが、力一杯張り切っておられました。

●ひらかた環境ネットワーク会議を訪問 2月17日(月)

枚方に天野川という川があり、その近くに村野小学校が廃校となり、校舎や運動場が地域に広く利用されていて、「ひらかた環境ネットワーク会議」の事務所が校舎の一角にあり、竹サインペンのお話を事務局長の丸井昌子さんと環境教育部会の藤原秀昭さんに説明いただきました。お二人ともすごく興味を持っていただき、来年大きなイベントが予定されているので紹介するから出展していただきたいとおっしゃっていただきました。また話のなかで紙コップを利用した糸電話の原理を利用した竹竿の三味線を見せていただきました。



第27回 自然と環境講演会

子どもは自然の中でそだつ

3月1日(土) 13:00~16:30

講師 京都大学准教授 浅野 悟史さん

会場 京田辺中央公民館2階 研修室

京田辺市田辺丸山214

小学校時代からやましろ里山の会 昆虫観察会に参加

「昆虫博士になる」と決意 そして今、、、を話します

子育て中のお父さん お母さん ご参加ください

プログラム

参加費 無料

1部 やましろ里山の会から学んだこと

2部 今研究していること 環境ものさし

3部 子どもの発表会

主催 やましろ里山の会

共催 ぽれぽれらんど

申込は HP から



後援 京田辺市教育委員会



原木から切り出す 炭焼き体験

参加者募集しています

しばらく炭焼の原木の切り出しは行っていませんでした

これから先、何回も計画できない取組ですなのでお越しください

2月22日(土) 13:30~15:30

場所	里山農園 現場に移動
所持品	帽子 軍手 手ぬぐい しっかりした靴 飲み物 多少のおやつ
参加費	無料
参加者募集	10人
参加申し込み	氏名 住所 年齢 電話 fddbwi257@yahoo.co.jp

釜詰めの手順について

- ①原木精製 長さ1m 太さ15cm 割ったり切ったりして整える
生木は1か月間乾燥させる
 - ②窯詰め 原木1t500kgを用意する
窯詰めした時上部に燃えやすい小枝を詰めておく
窯詰め前に下水床の残灰を綺麗に除去しておくこと大切である
 - ③着火 しっかりした焚口から燃やし込む 煙の色で判断する
第1回目は炭窯の湿気が抜けきれず調整が難しい (失敗が多い)
黒い煙から白い煙に変わってくる頃を見計らって
焚口の空気調整を行う(一晩位)
 - ④空気の調整 太い管に そして細い管にして 煙の調子から空気補給を遮断する
同時に煙突部分を遮断する
 - ⑤木酢液 着火初期は排煙突だけであるが
排煙の勢いが激しくなってくると横煙突を取り付け
煙を冷却することになり、液が戻ってくる これが木酢液である
一窯で約80リットルが最低採取できる
(酸性の非常に強い液体で焼ける匂いがあって防虫作用に最適)
 - ⑥窯出し 空気遮断時から冬で7日目まで窯の温度が低下して製品の窯出しを行う
 - ⑦詰め切り 完全にしていない炭化部分(下部)の切り離しを行って製品に精製する。
長さ15cm程度に切り揃えて、見栄えの製品にしてゆく
段ボールに5kgの重さにする
 - ⑧製品の管理 床の台の上に乗せて 地面からの湿気対策を完全にして保存する。
通風に配慮する
- 指導 元 京田辺市打田薪炭組合 会計責任者 植西干宇さん 88歳

